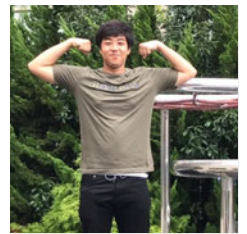


開<閉



中根 淳
建築設計計画I研究室

□コンセプト

建築の閉じるから開くの間には無限の空間が存在し、その1つ1つに良さが存在する。しかし、建築を設計するときに多くの人が建築を開こうとする。建築を開くことが正しい、閉じることは悪いこのとのように扱われていると感じた。そこで建築をどう開くかではなく建築をどう閉じるかのベクトルで建築を設計しようと考えた。

□プログラム

建築の閉じ方の1つとして、厚い壁で閉じるというものがある。住宅には用途的には必要不可欠だが、使われ方が限られ生活の中では厚い壁のような存在になっているものが多い。これらを厚い壁ととらえて外からの視線を閉じるような住宅を考えた。そして、その厚い壁のスケールが大きくなっていくことでそこは人の居場所ようになる。美術館では閉じ方やスケールの変化のグラデーションの中で建築を閉じ、人を引き込むようにした。

□デザイン

住宅は外からの視線は遮断しつつ、光や風は入りたい。そのため、8つの空間の種類の中の光OPENと光、風OPENの2つを軸に考えた。美術館は壁が厚くなっていくグラデーションや空間を閉じるときに用いられる壁と屋根のグラデーションを軸に考えた。

